
隔週刊「77歳が送る農業文化マガジン『電子耕』 第89号

-健康・農業・食・図書・人物情報・高齢者と若者の交流誌-

2002. 8. 8 (木) 発行 西東京市・ひばりが丘 原田 勉

*****発行部数 1678 部*****

<キーワード>

健康・食べ物・農林園芸・図書を中心とした雑学情報を提供し、庶民の歴史も残す。高齢者と若者の交流ミニコミ誌。お互いに情報を交流しましょう。

◎お願い「<読者の声>の投稿規定・メールの書き方」

- 1、件名（見出し）を必ず書くこと。読みたいくなる見出しを簡潔・明瞭に。「はじめまして」は省略して、言いたいことを具体的にズバリと書き出す。
- 2、氏名・ハンドルネームは、文末ではなく始めの方に書く。
- 3、1回1テーマ、書き出し・本文・結論を10行位にまとめる。
- 4、送信する前に、何を言わんとするか、読み返し、推敲することが大切。
- 5、ホームページを持っている人は、文末にURLをつける。

目次-----

<暑中お見舞いと「メルマガの楽しみ方」発行のお知らせ（原田勉）>

<読者の声>増山さんから：農家に弟子、酔翁さんから、オレゴンさんから、

<舌耕のネタ> 8月は敗戦に至る歴史を考える月にしたい

<これは良い本だ> 『メールのためのe文章入門』枝川公一著 朝日出版社

<話題の本> 『生死の作法』森 清著 岩波アクティブ新書700円

<日本たまご事情> 「たまごアンケート」に学ぶ2 愛鶏園 斎藤富士雄

<映像教材情報> 02年入賞作品紹介 農文協提携事業センター 栗田庄一

<山崎農業研究所> 和郷園の若者集団に第27回山崎記念農業賞 安富六郎

<私の近況報告> 7月25～8月7日。書名が決まりました。

<暑中お見舞いと『メルマガの楽しみ方』発行のお知らせ（原田勉）>

日本中が毎日30度以上というこのごろです。皆さんいかがお暮らしかお伺いします。メルマガ本の編集に夢中になりすっかりご無沙汰しております。無音のお詫びと、私の本発行のお知らせとお願いを申し上げます。

昨年の春、私は多発性骨髄腫を告知されて、皆様にもご心配をおかけしました。幸いその後慢性型と判り、進行は遅々として抗癌剤などの治療は受けず元

気でおります。農文協図書館の常務理事は停年になりましたが、近藤康男理事長の秘書の仕事は続け、月・水・金は通勤しております。

さて、そういう中で、このたび岩波書店から次のような本を発行することになりました。

岩波アクティブ新書『メールマガジンの楽しみ方』原田 勉著
という本です。

これは、3年前から私が発行している『電子耕』という隔週刊のメールマガジンをまとめたものです。パソコンが出来なければ判らないという本ではありません。ただ、今年77歳の老人の、3年間のメール交換の感動体験をお知らせしようというものです。

それに、この3年の経験を振り返って本を編集している間に血液検査の数値がおどろくほど良くなっていました。医師に聞くと「好きなことを続けていると免疫力が高くなる」ということです。

この本はパソコンがわからない人でも、読んでいてメールマガジンは面白いということが判ってもらえると思います。自分でいうのも恥ずかしいのですが、これは77歳の老人が多くの読者に助けられた感動物語です。ぜひ読んでみてください。

私のメールマガジンの発行当初は「言いたいことを言ってやろう」ということから始めましたが、読者の影響で「内容の質」が大きく変わり、三年たつと思いがけない情報が多く伝わるようになってきて、今では私自身が励まされる立場になりました。

たとえば、南米ブラジルやアメリカからのメールがきたり、ある養鶏家からの寄稿があったりして「へーと感心」しました。また、25年まえに亡くなった親友の息子から「お元気ですか」というまるで「仏様の導き」のようなメールが来て驚き、感動しました。さらに、17歳の女子高校生から携帯メールで進路相談が舞い込んだりしました。これに応えてくれたのはメル友でした。

それに、私のような高齢者は、脳卒中・ガンなどいろいろ病気をします。そんなとき面識もないメル友たちから励まされて、「こんなに助かったことはない」という有り難い体験をしました。それから命の大切さが身にしみ、健康・食・農業情報の重要性がますます大きくなりました。

<主な目次>

岩波アクティブ新書『メールマガジンの楽しみ方』原田 勉著
はじめに---楽しいから、感動するから続くメルマガ

- 1、メルマガ発行のいきさつ
 - 2、好奇心と伝えたい気持ちで読者1800人を獲得
 - 3、読者の反響で元気をもらう、メールに見る読者の関心
 - 4、思いがけぬメールいろいろ
 - 5、「主張したい」から「励まされる」存在に
 - 6、好まれるメルマガの条件
 - 7、誰でも作れるメルマガの問答集(Q&A)
- おわりに---いかに老いるか、いかに生きるか

<お願い>

発行予定は、2002年10月4日、ワイド新書版、定価700円+税。ただし何処の書店でも扱っている本ではないので前もって最寄りの書店に予約注文しておかないと手に入らないと思います。9月になったら、ぜひ予約して購読して下さいをお願いします。近くに本屋さんがない場合は下記の私の所へお申し込み下さい(定価700円+税35円、送料240円切手同封のこと)

。

202・0001 西東京市ひばりが丘2・2・1・106 原田 勉
電話 0424・24・5488番
e mail:tom@nazua.com

<読者の声>

■増山さんから：農家に弟子入りすることになった環境クラブです。

突然ですが、

「健康な野菜づくりのための土づくり研究会」で
ずっと、土壌・野菜の養分やビタミンの化学分析をしてきたフィールドの阿部農場に「弟子入り」して、野菜づくりや販売の手ほどきを受ける方向で話しが進んでいます。

> こんにちは。もんてすQです。

希望とは何か？、メルマガ期待しています。

「木には望みがある。

たとえ、きられても、水分にあうとまた芽を出す。

だが、人間は、息絶えるとどこにいるのか？」

人間にとっての「希望」とは何でしょうか？

> ■7/4 山崎さんから：特産品開発について思うこと

コロッケ情報期待しています。

「弟子入り」後の展開もお知らせしていこうと思います。

> <舌耕のネタ>中国産冷凍ホレンソウの残留農薬に思う 原田 勉

地産地消を実現しましょう。

> <日本たまご事情>「たまごアンケート」に学ぶ 愛鶏園 斎藤富士雄

7000人のアンケート結果レポートに期待しています。

> <晴耕雨読2>雨が降ってもやっぱり畑 田んぼのおばさん

> それにしても3年目にしてもまだまだ新発見に感動を覚える農作業である。

田んぼのおばさん様

環境クラブは、これから弟子入りです。

週1回程度の「農業研修」ですが、

がんばろうと思っています。

●原田から増山さんへ：農家に弟子入りは素晴らしいことです。忙しい中に農業を学ぶことで、いろいろな発見をされることでしょう。今後のメールが楽しみです。

■8/4 酔翁さんから：

六十？歳になっても好奇心の旺盛な、読者の“酔翁”といます。

メールマガジンが好きでよく購読しています。
貴誌も楽しく愛読させていただいています。

読むに値しないようなものも多いですが、そういうのは速攻で解除！
はっはっは、

けれど、中にはこれはもっとみんなに読まれるべきだが、
と思われるマガジンも少なくありません。
貴誌もそうだと思います。
より多くの方の目にとまってもいいように感じました。
しかし、

現在の、メールマガジンの洪水の中で、
より多くの人々の目にとまるようにする……

内容の充実提高、は当然欠くべからざるところであろうと思いますが、
それだけでは当たり前で、車輪の一半を欠く事になるのではないか・・・
多くの人々に知ってもらおうとする努力も同じように大切ではないか・・・

そんな事を思っていたら、
役に立ちそうなメールマガジンがありました。

「読者獲得大作戦！あの手この手+裏の手ー♪」
というメールマガジンです。

http://chinachips.fc2web.com/mmsogo/mmtto_ka.html

メールマガジンの宣伝の世界、
読者獲得の為のあれこれをよく捉えていると思います。
ご参考になれば幸甚です。

では、ますますのご健闘を祈念しています。

=====

“酔翁”

●原田から：ご親切にメルマガの宣伝についての助言有り難うございました。活用したいと思います。なお、上記のように『メールマガジンの楽しみ方』の発行で部数がどのくらい増えるか楽しみです。

■8/7 オレゴンさんから：

植物製プラスチックから富士通PC製造に疑問 ハンドルネーム：オレゴン

パソコン雑誌で最近富士通が植物から作る微生物分解されるプラスチックを利用したPCを作ったという記事を見ました。このような開発は耳にしていたが、ふと、農地面積や水の問題と絡めて疑問が起きました。人口問題から食糧や水が不足するというのにプラ用に農地面積があるのか、ということです。

この疑問のあと参考となる記事が新聞に出ました。WWF報告書によると食糧や燃料などの資源を生み出すことが可能な陸地や海の面積は人口1人当たり1.9haに相当。しかし、1999年の人類の消費相当分は2.3ha/1人となり、地球生産能力を約20%上回る「過剰消費」だそうです。欧米ではもっと過剰です。2050年には80-120%超過する見込みです。さらに悪化し経済福祉も衰退するというのです。こんなことではとてもプラ用の農地面積があるとは思えません。

化石燃料を使わないことも大事ですが、この浪費社会の考えを改めることが第一ではないでしょうか。更に、植物の循環を人間の都合だけで早回しにしてもいいのか、水不足は起きないのかも心配になります。私自身は化石燃料使用を減らすため、唯一の趣味だったバイクレースを止めました。決断した時はショックでした。でも、将来世代の為にやはりやめるべきと決めました。次の趣味は空手の稽古と里山保護活動。運動不足には持って来いです。温暖化は今CO2が安定化しても100年以上も進むそうです。皆さんもなにか行動を起こして下さい。あまり時間がないと思います。

(WWF = 世界自然保護基金)

WWF ジャパン <http://www.wwf.or.jp/>

WWF インターナショナル <http://www.panda.org/>

原田さんへ

結果的に最後の方に書いた切羽詰まった気持ちでいつも物事を見ているので、このような文章となってしまいます。少し過激でしょうか。日常生活であまりにも悩天気の日本人の老若男女が多いのでこのような感情をもって書いてしまってます。

何かいつもと違う書き方がわかったような気がしました。疑問を問いかけるだけでなく、率直に自分の行っていることも言って、問いかけるというのもいいのでしょうか。自分のことを言うと、何かあまりにお仕着せがましいとも感じていたのですが、表現の程度を考えて言えばいいのかなと感じました。原田さんのアドバイス「貴方のいわれるように化石燃料をいかにへらすか、私はこうしていると訴えて下さると有り難い。」で自分のことを書いててなんかそう感じました。

●原田からオレゴンさんへ：7月の投稿に「要旨を明確に短く書いて」と注文をつけて書き直して貰いました。他のマスコミの報道にはなかなか載らないことを提起して頂いて有り難うございました。読者のみなさんでご意見をお寄せ下さい。

<舌耕のネタ> 8月は敗戦に至る歴史を考える月にしたい

1945（昭和20）年8月は忘れられない悲劇が多くありました。

8月6日、広島に原爆投下、死者15万人。

8月8日、ソ連、日本に宣戦布告、満州への進撃を開始（在満日本人百万人は日本軍に置き去りにされ、多くの死者・残留孤児などの悲劇を産んだ）

8月9日、長崎に原爆投下、死者8万人。

8月15日、天皇、戦争終結の証書をラジオ放送。多くの混乱。

なぜ、こうした戦争の悲劇が起こったのか。

先の国会では、有事法制と個人情報保護法案などが準備されました。

今回は上提されませんでした。今後繰り返し推し進められるでしょう。

しかし、日本がこの敗戦に至った歴史は風化され、忘れ去ろうとしています。

広島では、8月1日、国立原爆死没者追悼平和記念館が開館して原爆の悲劇を後世に永遠に伝えようとしています。

私たちは、少なくとも敗戦から15年遡って、どのようにしてここに至った

かを明かにする必要があると思います。

例えば、私は満州事変の年に6歳でした。日中戦争が起こったとき12歳でした。その頃から次第に軍国少年になったと思います。そして敗戦の時、陸軍の幹部候補生になっていました。自分で見たり聞いたりした戦争への道を明らかにして「戦争を語り継ぐ」ことにしたいと思います。これが8月の仕事です。それをまとめてホームページに残したいと思います。

<これは良い本だ> 『メールのためのe文章入門』枝川公一著 朝日出版社

メールは、電話のような話し言葉とも手紙のような書き言葉とも違います。「メールは生の感情や心が乗り移った書き言葉」あるいは「消えることなく残りうる話し言葉」のようでもある新しい領域を開こうとしてと著者は言っています。

アメリカで生まれたビジネス通信文の典型としてのメールは「簡潔で明瞭で正確なメールを送信する」ことであるが、最も大事なのはメールの自由ですと著者は言う。そしてメールは、新しい文章作法を生み出す。これまでのコミュニケーション手段とメールはどこが違うか、ヨーロッパで調べたら、男性は「正直になれる」こと、女性は「自信が持てる」ことを重視するという回答が多くあった。気楽で優しいメディアだから自分を正直に表現できるし、自信も持てるということになるという。

ともかく、これは、本格的なメール文章の入門として推薦したい。なお、具体的な事例が多いのは有り難い。7月発行、定価1100円＋税

<http://www.asahipress.com/new2/e-mail/index.html>

<話題の本> 『生死の作法』森 清著 岩波アクティブ新書700円＋税

「しょうじのさほう」と読みます。著者はこの本で、自分の心身のありのままを見つめて考え、生死の作法を書いたと言います。これで生きていく一つの新しいよりどころを得たと感じています。インターネットのホームページでよりどころを創っている人もいますが、多くの方々が種々の手段で自己検証、発見、創造の営みをされるように期待しますとも言う。

「あなたは突然死のおそれがあります」と言われ生老病死を考へ、自分の葬送はこのようにして欲しいとまで書いています。

著者は中小企業経営、技術、労働、宗教などをテーマに評論活動をしている

山野美容芸術短期大学教授・副学長。正直これほど赤裸々に夫婦生活や病氣のことを書いたのはおどろきでした。60歳以上の人はぜひ読んだ方が良いと思いました。

<http://www.iwanami.co.jp/BOOKS/70/4/7000340.html>

<日本たまご事情>「たまごアンケート」に学ぶ2 愛鶏園 齋藤富士雄

やはりたまごの安全，安心であったこと（2）

一万人をこえる回答者の関心事はやはりたまごの安全，安心であった。また約7000人近くの人たちがたまごについて疑問，質問などを書き込んでくれました。

この中で特に印象に残ったコメントを紹介しよう、20代で子供二人の4人家族の主婦より。

「正直言って、いつもタマゴを買うときに迷ってます。10ヶ入りで特売の48円！！のタマゴを買おうか？それより少し高めだけど198円のタマゴを買おうか？でも念のためにに安心，安全，家族のことを考えて高いほうを買っていますが、大して差が無いなら安い方が魅力的です。ほとんど毎日のように食べているのですから価格が安ければ助かりますが、品質の心配なものは食べられません。安いタマゴ、高いタマゴのそれぞれを選ぼうえで気をつけることなどが知りたいのです。どちらを選ぶのがよいのか？悩みます。」

子育て真っ最中の健気な若奥さんのものです、これは多くの人たちがいただく疑問点を代表しています。

安いタマゴは品質が悪い？高いタマゴは良い？

答えられることは、農場のニワトリは特売用の安いタマゴを特別に産むことはできません、産まれた時は同じ品質です。鮮度管理が同じであれば48円でも198円でも同じ品質です。

ただし、特売用は一度に大量にタマゴが必要になります、このため夏季鮮度管理が少々難しくなり鮮度に差がみられることがあります。冬季はほとんど差がでません。

鮮度を見極めて大いに特売のタマゴを買って下さい、特売のタマゴだけを買われたのではお店は成り立ちませんから、いずれ特売を止めることになります。

齋藤 富士雄
(株) 愛鶏園

<http://www.ikn.co.jp/>

<映像教材情報> 02年入賞作品紹介 農文協提携事業センター 栗田庄一

● 「地域環境を土から調べるビデオ」の受賞報告

地球規模の環境問題が毎日のように報道されています。地球温暖化、森林破壊、砂漠化などなど。そんななかで、まずは自分の暮らす地域から環境を見つめ直そうというねらいで、農文協が企画・制作したビデオ作品「地域から調べる環境シリーズ・土から調べるー森林土に学ぶ土の役割」が、半世紀も続いているコンクールで「最優秀作品賞＝文部科学大臣賞」をいただきました（発表7月31日）。

コンクールの名前は「2002年（第49回）教育映像祭優秀映像選奨」。
（財）日本視聴覚教育協会主催、文部科学省・毎日新聞社・NHK他後援。31社155作品の応募のなかから最優秀5作品のひとつ（学校教育部門高等学校向け）に選ばれたのです。

この作品は「森林土に学ぶ土の役割」を調べるのがテーマ。肥料もなしで樹木や草を育てられる高い生産力を持つ森林土は、たっぷりの水を保持し、環境を守る機能も持っています。高い生産力と環境保全機能を持つ森林土の働きを理想として、人の力と、生きものたちの力で維持しているのが、私たちの身近な畑や水田なのです。

この作品では、岩石の山から有機物と微生物の力によって森林土が作られていくしくみと、その機能を実現する畑や水田の「土作り」の意味を、実際に森や田畑の土を調べながら学んでいきます。このシリーズは、全部で4巻あり、土のほかに「生きものから調べる」「水から調べる」「大気から調べる」があり、地域の環境学習の教材として、利用が広がっています。

このコンクールでは、ほかに農文協制作のビデオとして「安全安心な食を考えるシリーズ・大丈夫？あなたの食卓ー輸入食品を追跡する」が「社会教育部門」で、「営農の復権で元気な地域づくりーJA新時代の営農事業とは」が「職能教育部門」で、いずれも「優秀作品賞」をいただきました。

いずれの作品も、それぞれの地域の個性を活かし、自然と人間が調和した地域づくりをすすめようという志のもとで制作されたものです。各作品は、農文協図書館（練馬区立野町15-45 電話03-3928-7440）で試写上映できますので、ご連絡ください。

（社）農山漁村文化協会 提携事業センター 栗田 庄一

〒107-8668 東京都港区赤坂7-6-1

TEL.03-3585-1144 FAX.03-3585-6466

kurita@mail.ruralnet.or.jp

<山崎農業研究所>和郷園の若者集団に第27回山崎記念農業賞 安富六郎

7月5日に第28回山崎農業研究所の総会が開催されました。今年の上崎記念農業賞には農業・農村や環境に優しい「若者集団による循環農業」、千葉県香取郡山田町「農産物販売組織」「和郷園」（代表 木内博一氏）が決まりました。

受賞者の挨拶として和郷園（農事組合法人：組合員90戸）は年間を通じて45品目の野菜、卵、花、の生産加工、集出荷を行い、生協、スーパー、外食関連等の50社に販売している状況についての紹介がありました。生産から出荷までの工程、土づくりから野菜残渣も資源化するリサイクルセンターや農薬・肥料の使用管理システムなどにも詳細な説明がありました。環境を重視した農業を行い、生産に関する情報をユーザーに公開し、全国の有機農業組合との情報交換、循環型農業を徹底して行っている和郷園は、日本農業の未来を感じさせる頼もしい若者集団です。山崎記念農業賞の趣旨にそって真に農業・農村を支える活動の原点として、この集団が発展することを期待いたします。

その後シンポジウムが開催されました。

シンポジウム： 現場から「食の安全と安心」を問うー循環型農業とトレーサビリティー（木内博一、佐藤正史、土屋孝治、古野雅美、司会：小泉浩郎 敬称略）

<食の安全と安心>

和郷園ではこれを農業を行うための前提として捉え、組織を拡大することではなく、各農家が自立して直接消費者とつながった農産物を作ることが望ましいと考えている。生産者は消費者がどんなものを望んでいるかを知り、両者が一

体となったシステムを作り上げることが要であるとしている。 これを実現するには次のような2つの柱が支えとなっている。

<循環型農業>

環境に優しい土づくりに力を入れている。堆肥づくりには加工場から出る生ゴミも資源である。ここでは畜産も組み入れた徹底したリサイクル活用が行われている。

<トレーサビリティ>

農薬は生物多様性に影響があるので、できるだけ少量で使用時期を決めながら行っている。農薬や肥料は使用記録を残して、管理する。農薬は味にも関係する。残留の有無についても出荷前にチェックするなど、さまざまな注意が払われている。

<参加者の感想>

和郷園を中心に具体的に話が進んだので、大変わかりやすく、このような経営だったら他でもやる気があれば可能であることが分かった。食の安全性への考えと、それを実行に移すシステム作りは農業全体の課題である。各農家が自立して消費者と共に考え、そして、若い後継者がその気になれば、わが国農業の将来は明るい。

<私の近況報告> 7月25～8月7日。新書の書名が決まりました。

7月26日、今日から近藤康男理事長は避暑のため八岳山麓の山荘に行かれる。思い出エッセイの原稿を持参し、完成したいと言われる。

27日、劇団文化座友の会理事会に出席する。信元会長議長席につき、私は司会進行をつとめる。会員1300人を確保し、さらに拡大するにはどうするかが中心課題。会員の連絡・手紙・HPの改善など地道に一つずつ積み重ねるしかない。今年は創立60周年記念の集いもある。HPの充実が必要である。

29日、山崎農業研究所の役員会、今後のあり方を模索中。

31日、岩波書店編集部の会議で、私の本の書名が決定する。『メールマガジンの楽しみ方』10月4日発行となる。

8月2日、上記の校正刷り届く。初校グラ戻し8月26日まで、再校グラ戻し

9月10日までの予定で進行し、10月4日、書店販売の予定。

8月3～5日、『電子耕』89号の編集。その間に菜園の朝顔の支柱誘引、そ

の他の花とハーブの手入れ。雨を待ってブルーベリー 2 本の定植をする。

『電子耕』から大切なお知らせ

■山崎農研発行の書籍のご案内

http://www.taiyo-c.co.jp/public_html/yamazaki/yama_books.htm

●協力をいただいているサイト紹介コーナー

「農文協ルーラルネット」

<http://www.ruralnet.or.jp/>

「山崎農業研究所」

http://www.taiyo-c.co.jp/public_html/yamazaki/yama_frame.htm

「劇団文化座」

<http://bunkaza.com/>

「77歳の伝記ライター 原田 勉」ホームページ制作管理
internet SOHO なずなコム

<http://nazuna.com/>

■ご意見・ご感想は、Eメール

<mailto:tom@nazuna.com>

または、電耕掲示板

<http://6201.teacup.com/tom/bbs?>

までお願いします。

●メール送付の際のご注意案内↓

<http://nazuna.com/tom/denshico.html#mail>

『電子耕』は、2つのルートで配送しております。

『まぐまぐ(ID=14872)』

<http://www.mag2.com/>

『Macky !(ID=1283)』

<http://macky.nifty.com/>

★SPECIAL THANKS to INTERNET JAH

<http://www.jah.ne.jp/>

— P R —

- ■ ■ ■ 劇団文化座創立60周年記念第3弾 第115回公演
■ ■ ■ □ -1960年代の青春がいま甦る！話題作必見の凱旋公演-
■ ■ □ □ 『青春デンドケデケデケ』
■ □ □ □ 原作／芦原すなお・脚本／小松幹生・演出／佐々木雄二
□ □ □ □ 公演日程 2002年8月28日（水）～9月8日（日）
□ □ □ □ 会場 下北沢・本多劇場 チケット発売中

<http://bunkaza.com/>

— P R —

<本誌記事の無断転載を禁じます>

隔週刊「77歳が送る農業文化マガジン『電子耕』 第89号
バックナンバー・購読申し込み/解除案内

<http://nazuna.com/tom/denshico.html>

2002.8.8（木）発行 西東京市・ひばりが丘 原田 勉

<mailto:tom@nazuna.com>

発行部数 1678部 **ここまで『電子耕』*****